



トークショー 作家・末吉暁子の世界を語る

～編集者時代からがんこちゃんまで～

児童文学作家として、ファンタジー長編や幼年シリーズなど、読者の心をつかむ数多くの作品を生み出した末吉暁子(1942-2016)。

トークショーでは、佐藤さとの担当をしていた編集者時代のエピソードから、児童文学作家としての歩み、創刊メンバーで執筆や編集に関わった会員誌「鬼ヶ島通信」での活躍、またNHKの人気番組「ざわざわ森のがんこちゃん」誕生秘話などなど、多方面のゆかりの方がたから貴重なお話を伺います。

当日は、声優・山田栄子さんに、末吉暁子作品を朗読して頂きますので、どうぞお楽しみに。

2026

6/27

土曜日

開演：
13時30分 (開場は30分前)

会場：
神奈川近代文学館
展示館2Fホール (定員220名)

料金：
1,500円 (全席自由・税込)
※神奈川近代文学館友の会1,000円
※未就学児の入場はご遠慮下さい

登壇者 (登壇順)

那須田淳・柏葉幸子・金沢千秋・野上暁・津田隆彦 (ゴブリン書房)・加藤佳子 (あかね書房)・別府章子・山室秀之 (講談社)・梶原祐理子・山田栄子・押川理佐

共催

〈末吉暁子の世界〉運営委員会・
県立神奈川近代文学館・(公財)神奈川文学振興会

協力

鬼ヶ島通信社・東洋英和女学院大学・あかね書房・偕成社・講談社・ゴブリン書房・宮川健郎・服部淳子・末吉健

午前の部は
参加無料
子ども向け!

ペープサートと絵本のよみきかせ



開場:10時45分 要予約

開演:11時 (上演時間は約45分の予定です)

会場:神奈川近代文学館 展示館2F中会議室 (定員70名)

出演:押川理佐・東洋英和女学院大学子ども教育学科の学生さん

末吉暁子の童話『ぞくぞく村のちびっこおばけ グー・スー・ピー』(垂石眞子画、あかね書房)を、楽しい音楽とともにペープサート(紙人形劇)で上演いたします! 絵本のよみきかせもあります。どうぞお楽しみに!

チケット購入・予約方法

トークショー

チケットは神奈川近代文学館ミュージアムショップで販売
※入場はチケットの整理番号順です

○ローソンチケットでもご購入いただけます。 ※友の会割引はありません。

<http://l-tike.com>

全国ローソン・ミニストップ店頭 Loppi (別途発券手数料等がかかります)

Lコード: 30061

ペープサートと絵本のよみきかせ

お電話 (045-622-6666)またはホームページの申込フォームで

代表者名・電話番号・参加人数をお知らせください。

先着順で定員になり次第受付を終了します。



申込フォーム

横浜・山手 港の見える丘公園内

県立 神奈川近代文学館

Kanagawa Museum of Modern Literature

〒231-0862 横浜市中区山手町110

TEL 045-622-6666 <https://www.kanabun.or.jp>

ACCESS

※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉元町・中華街駅下車
6番出口 (アメリカ山公園口) から徒歩10分

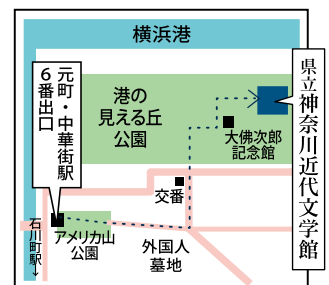
〈バス〉いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

・神奈川中央交通バス⑪系: 桜木町駅～保土ヶ谷駅

・横浜市営バス②⑩系: 桜木町駅～山手駅

・観光スポット周遊バス「あかいくつ」

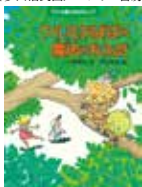
〈JR根岸線〉石川町駅下車 元町口 (南口) から徒歩20分





『ぞくぞく村のちびっこおばけグー・スー・ビー』
(垂石眞子画/あかね書房)

『クルミおばの魔法のおふだ』
(多田治良画/ゴブリン書房)



『森のキノコまじよ』
(武田美穂画/講談社)



『赤い髪のみう』
(平澤明子画/講談社)



『理科室のがいこつホキホキ』
(原ゆたか画/偕成社)



『ママの黄色い子象』
(中地智恵画/講談社)

登壇者プロフィール

山田 栄子 (声優・俳優)

アニメ「赤毛のアン」アン役、「ドラゴンボール」マイ役など、多くの名作アニメで主役級キャストを演じる。「ざわざわ森のがんこちゃん」では、がんこちゃんのお母さん役、キノコ魔女役などを演じている。



柏葉 幸子 (児童文学作家)

『霧のむこうのふしぎな町』(講談社)で日本児童文学者協会新人賞、『岬のマヨイガ』(講談社)で野間児童文芸賞など、受賞作品多数。末吉暁子とは「鬼ヶ島通信」同人で共に活躍。



那須田 淳 (児童文学作家)

『ペーターという名のオオカミ』(小峰書店)で産経児童出版文化賞、坪田譲治文学賞受賞。『おとうさんのポストカード』(講談社)他、著作多数。「鬼ヶ島通信」現編集長。

野上 暁 (日本ペンクラブ副会長)

小学館に勤務し「小学一年生」編集長、取締役などを歴任。「鬼ヶ島通信」創刊に関わる。主著に『子ども文化の現代史』『「小学一年生」100年の現代史』など多数。

金沢 千秋 (元講談社編集者)

児童図書出版部で末吉暁子の後輩にあたる。『ママの黄色い子象』他を担当。書籍版〈がんこちゃん〉シリーズのスタートに立ち会う。「鬼ヶ島通信」創刊メンバー。

津田 隆彦 (ゴブリン書房代表)

末吉暁子著〈クルミ森のおはなし〉シリーズ全4巻を編集、出版。

加藤 佳子 (あかね書房編集者)

末吉暁子・作の〈ぞくぞく村〉シリーズが大好き。16巻『ぞくぞく村のかぼちゃ怪人』～19巻『ぞくぞく村のにじ色ドラゴン』を担当。末吉一座のペープサート公演にも参加。

別府 章子 (元偕成社編集者)

末吉暁子の作品では『こうかん日記で魔法をかけて』、『黒ばらさんの七つの魔法』、〈シルカ小学校のブキミともだち〉シリーズなどを担当。

山室 秀之 (講談社編集者)

末吉暁子作品では『赤い髪のみう』(産経児童出版文化賞フジテレビ賞)、『ざわざわ森のがんこちゃん 森のキノコまじよ』などを担当。末吉一座のペープサート公演にも参加。

梶原 祐理子 (元NHKディレクター)

「教室に風穴を開ける書下ろしを」と末吉暁子に猛アタックし、テレビ人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」を開発。番組は30年を超える長寿番組に。現在は企業の社外取締役、レストラン経営。

押川 理佐 (作家・脚本家)

著作に絵本〈ねこまるせんせい〉シリーズ(世界文化社)他。2015年より「新・ざわざわ森のがんこちゃん」(NHK)などの〈がんこちゃん〉シリーズ脚本。末吉暁子の長女。

末吉 暁子 (すえよし あきこ)

1942年8月神奈川県横浜市生まれ。3歳で静岡県沼津市へ転居、海のそばでのびやかな少女時代を過ごす。青山学院女子短大英文科を卒業し講談社に入社、編集者として佐藤さとるを担当。講談社退社後、『かいじゅうになった女の子』(偕成社)で作家デビュー。『星に帰った少女』(偕成社)で日本児童文学者協会新人賞・日本児童文芸家協会新人賞、『ママの黄色い子象』(講談社)で野間児童文芸賞、『雨ふり花さいた』(偕成社)で小学館児童出版文化賞、『赤い髪のみう』(講談社)で産経児童出版文化賞フジテレビ賞など、受賞作品多数。1983年会員制同人誌「鬼ヶ島通信」の創刊に参加、作品執筆の傍ら、長く編集にも関わる。1996年からTV人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」(NHK)の原作・脚本を手がける。2000年頃から全国を回ってペープサートを上演。東日本大震災後は福島や岩手の幼稚園や図書館などへ赴き上演を続けた。〈ぞくぞく村のおばけたち〉シリーズ(あかね書房)や、〈クルミ森のおはなし〉シリーズ(ゴブリン書房)のような、幼い子どもの心をつかむ幼年童話と、論理性と空想性が一致した長編ファンタジーの分野との両輪で、生涯にわたり書き続けた。2016年5月没。



がんこちゃんと



『もりのかくれんぼう』
(林明子画/偕成社)



『波のそこにも』
(佐竹美保画/偕成社)



『雨ふり花さいた』
(こみねゆら画/偕成社)



『かいじゅうになった女の子』
(大橋歩画/偕成社)



『星に帰った少女』
(こみねゆら画/偕成社)



『黒ばらさんの七つの魔法』
(牧野鈴子画/偕成社)